

Fシネマ・プロジェクト ポータルサイト

第30回 高崎映画祭 プレ映画祭

「Fシネマップ」開設記念イベント

fcinemap.com

2月14^(日)

2016年 2月14^(日)~15^(日)

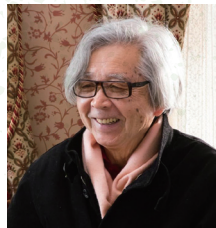
11:00~ 映画上映とトーク <鑑賞料金 1000円>



『下町の太陽』 (1963年 86分 松竹)監督:山田洋次 出演:倍賞千恵子、勝呂誉

山田洋次監督の監督第二作で、この後山田映画の常連となる倍賞千恵子との初コンビ作。倍賞千恵子が歌った同名の曲の大ヒットを受けて企画された、爽やかな青春映画。懸命に生きる庶民を描く山田監督らしい傑作。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 (c)1963 松竹株式会社



トークゲスト
山田洋次
(映画監督)

50年以上にわたり、数々の名作を撮りつづけてきた山田洋次監督は、最新作『母と暮らせば』を35ミリフィルムで特別上映するなど、フィルムでの映画づくりにこだわっている。山田監督にフィルムへの想いを聞く。

聞き手: 富田美香(東京国立近代美術館フィルムセンター)

14:00~ Fシネマ・プロジェクト シンポジウム <参加無料>

上映後そのままシンポジウムへご参加いただけます

14:00~14:15 Fシネマップのプレゼンテーション

14:20~14:50 映画上映『高崎での話』+トーク (1951/20分/RKOパテ社)

戦後の占領下にあった昭和25年4月、連合国軍総司令部(GHQ)新聞課長が高崎で講演し、民主主義と地域社会の発展には郷土新聞の発行が欠かせないと説いた。これをきっかけに高崎市民は、株主100人、資本金20万円の株式会社を設立。「高崎市民新聞」が創刊された。毎週土曜日発行の週刊新聞として、市民生活に密着した記事を掲載した同紙は好評を博し、GHQは同紙を全国的な成功例として賞賛、映画『高崎での話』を制作した。昭和26年高崎電気館で上映されたときには大勢の市民が詰めかけた。東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵

トークゲスト:とちぎあきら(東京国立近代美術館フィルムセンター)

15:00~16:30 ディスカッション「映写で映画が完成する~映写という仕事について」

司 会:志尾睦子(高崎映画祭/シネマテークたかさき)

登壇者:鈴木直巳(鈴木映画)/堀三郎(アテネ・フランセ文化センター制作室)/神田麻美(映写技師/東京国立近代美術館フィルムセンター)

とちぎあきら(東京国立近代美術館フィルムセンター)

映画を最終的に完成させる“映写”の専門家として、映画に関わってきた人たちの視点から、映画の現在と未来を話しあう。

【主催】文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業
高崎映画祭/一般社団法人コミュニティシネマセンター

【制作】シネマテークたかさき/一般社団法人コミュニティシネマセンター

【協力】東京国立近代美術館フィルムセンター

【イベントに関するお問い合わせ】

コミュニティシネマセンター TEL:050-3535-1573

シネマテークたかさき TEL:027-325-1744

高崎映画祭事務局

高崎市あら町202番地 TEL:027-326-2206 <http://takasaki.film.gunma.jp>



会場

高崎電気館

高崎市柳川町31番地

専用駐車場はございませんので、公共交通機関または近隣の有料駐車場をご利用ください。

高崎電気館に関するお問い合わせは
シネマテークたかさきまで

TEL:027-325-1744

